

トップメッセージ



代表取締役社長 兼CEO兼COO 竹林 義彦

「金属」素材を通じて、地球資源の大切さ、地球環境保全の大切さを常に考えております。

1 | 社長になられて、経営を執行する上での最優先課題は何でしょうか。

私たち三井金属グループは、「金属」という素材と長く関わってきました。そうした中で、地球資源の大切さを認識すると同時に、地球環境の保全に対し、企業として、個人として社会的責任を果たさなければいけないと常に考えています。

そのため日頃から、経営の最優先課題を「安全環境第一」として掲げ、経営トップの率先垂範のもと「災害ゼロ」「環境事故ゼロ」の実現に向け当社グループ一丸となって取り組んでいます。

2 | ISO14001環境マネジメントシステムの構築も、進んでいるとのことですが。

三井金属グループは2000年度から、ISO14001環境マネジメントシステムの構築を開始しました。2007年度前半には関係会社を含めて、ほぼ完了しました。

ただ、ISO14001環境マネジメントシステムは、構築して終了ではありません。日常業務において円滑な運営をすべく、PDCAを回しマネジメントプログラムを着実に進めていくことが大切です。これからは、システム運用を定着させるために教育に力を入れて、経営にも活かすようにしたいと考えています。

3 | 企業人として歩まれたこれまでのご経験を地球環境面などの人材育成に、どのように生かしていきたいとお考えでしょうか。

私は入社以来、経理、人事・労政・教育畑を歩んできました。「人材」は企業にとって、成長のエンジンであるというだけではありません。コンプライアンス、地球環境、CSRなど企業の社会的責任を果たすためにも、教育や人材の育成は非常に重要であると考えています。そのための一つの施策としては、研修やセミナーなどを従来にも増して積極的に開催していきたいと考えています。

2003年度からは、コンプライアンスのための一つとして製造部門の管理・監督職やスタッフ対象の環境法令順守を目指した研修会を開催していますが、更に2006年度からは事業場において

労働安全衛生関連法令、環境関連法令を合わせた研修会の開催を始めており、社会の変化にも積極的に対応していきたいと考えています。

4 地球環境、とりわけ対策が急務となっている地球温暖化について、主な取り組みをご紹介します。

三井金属グループは製錬事業を運営していることで電力、コークスなどのエネルギーを多く使用しており、CO₂（二酸化炭素）排出による地球温暖化は重要な問題であると認識しています。

とりわけ、当社グループが排出するCO₂量の約8割を占める製錬・素材部門では、省エネ設備転換等の改善によりエネルギー使用量を削減しています。こうした努力により当社グループ全体においてエネルギー使用の低減を実現した量は、事業拡大により増加した分を上回っています。これからも、CO₂の更なる低減対策を、鋭意実施していきたいと考えています。

5 最近では、CSR（企業の社会的責任）への関心が高まっていますが。

当然のことながら、企業は社会の公器であることを十分に認識しており、CSRやコンプライアンスなどに率先して取り組んでいます。そうした活動の一環として地域活動を捉え、全国各地で清掃活動、ボランティア活動などを積極的に行い、地域との「共生」を目指しています。

6 環境関係の事業も大きな可能性が考えられますが、事業を通じての地球環境保全、社会貢献についてお聞かせください。

例えば、長年にわたり培ってきた製錬事業の技術を用い、非鉄金属のリサイクルを行っています。都市から排出されるあらゆる廃棄物の中から亜鉛、鉛、貴金属をはじめとした有価金属を回収し再び製品として市場へ供給しています。この事業を通じ当社は、資源の有効利用を図ると共に、循環型社会の実現に努めています。

また、従来の資源開発の知識や技術を応用し、土壌汚染・地下水汚染に対する浄化対策をはじめとする環境コンサルタントも行っています。

加えて、オートバイや自動車の排気ガスを浄化するために欠かせない触媒を生産しています。アジア諸国をはじめとするモータリゼーションの拡大と共に懸念される環境問題に対し、各国では排気ガスの排出規制が強化されつつあります。当社の触媒は、こうした社会的要請に応える製品のひとつであり、世界的な需要の広がりや相まって、現在、グローバルな事業展開をしています。

7 最後に、地球環境や社会貢献に対するお考え、ご自身の信条などについてご紹介ください。

企業活動や事業を通じて、地球環境保全や地域社会などへの貢献に努めていきます。これは、今までも、これからも一貫して変わることはありません。こうした取り組みや活動については、この「環境報告書」やホームページなどを通じて積極的に開示していますので、今後とも更なるご理解ご支援をお願い申し上げます。

私の信条は「高い志」をもつこと。「高い志」があれば現状とのギャップが見えてきますし、それを解決するためのエネルギーも生まれてきます。ステークホルダーの皆様のご期待にお応えすべく、目線を上げて努力を続けてまいります。